

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 1/1

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

(第1問) 論述式 (第2問) 論述式・記述式 (第3問) 記述式

分量・難易(前年比較) 分量(減少・**変化なし**・増加) 難易(易化・**変化なし**・難化)

第1問は20行でここ数年変わらず。第2問は3行が1問、2行が4問、1行が1問で、それに短答記述が2問で、昨年度と総行数は同じであった。第3問は設問10問、解答数は11個で、1個増加。

出題の特徴

第1問が古代のみという出題は東大では約40年ぶりのことで、新傾向といえる。第2問は(2)(a)「藩部統治」の設問以外はすべて初出題のテーマである。

その他トピックス

第2問の(2)(a)「藩部統治」の設問は夏期講習「東大世界史」の創作問題「藩部の統治体制」がズバリの中した。また(1)(a)は近年の東大即応オープンの創作問題とズバリ一致した。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述	古代ローマ帝国と秦帝国の成立過程	「社会変化」としてローマは重装歩兵団の没落、市民権の拡大、私兵を抱える有力者の台頭を指摘する。中国では鉄製農具と牛耕で新農地、邑の解体とともに宗法も無視され諸侯は有能な者を抜擢して富国強兵策、そして封建制の解体と郡県制が拡大して統合の要として漢字が大きな役割を果たすことを指摘する。皇帝の呼び名に関しては、ローマが「プリンケプス」であるのに対し、中国が「天の支配者」である違いも指摘したい。	やや難
第2問	論述 記述	各時代・地域の少数者集団	(1)(a) ヤゲウォ朝だけでなく、その前のカジミェシュ大王の指摘も必要。(1)(b) カトリックを排斥する文化闘争を想起する。(2)(b) マレー人優遇策と多数派の華僑の離反がキーワード。	標準
第3問	記述	古代から現代の戦争	(1) をホスロー1世、(2) をアッバース朝、カロリング朝、(6) をベルリン条約などと間違えると痛い。なお「戦争」のテーマは東大では頻出で過去に第1問、第2問でも出題実績がある。(10) グロティウスもたびたび問われている。	やや易

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

第1問が古代だけの出題となったこともあり、やはり全時代的な学習が望まれる。第2問では、短文の要点を的確に指摘できるように内容の理解を深めることが大事である。